

コメント 漢方薬について

先日、漢方薬に関する悪意のある記事が週刊誌に載りました。実際の臨床の場では漢方薬を使うことによって、多くの患者さんの症状が改善しています。

患者さんと手を取り合って喜び合う場面もしばしばあります。副作用だけを極端に浮き彫りにして週刊誌として売るのは、いかがなものかと思えます。

西洋薬も漢方薬も薬ですから、作用／副作用の両面があります。もともと薬というのは「毒」です。

その副作用を利用して薬として使っているのです。うちでは多くの患者さんが漢方薬を使用している状況です。急性期の病気、特にカゼに関しては8割以上の方が漢方薬で治しています。

もちろん、漢方薬を希望して治療を開始したが、飲めない、下痢をした、血圧が上がった、足がむくんだ等の訴えがあり、内服を中止せざるを得ない方もおられます。

また漢方薬を飲んで、よく反応する人(responder)とあまり反応しない人(non-responder)がいるのも事実です。

現代に生きる人は、西洋薬と漢方薬の両方の恩恵を受けることができる、素晴らしい環境下にいます。

西洋医学が確実に進歩を遂げているので、新たな治療薬を試すことができます。

従来治らなかった病気が治る可能性もあります。

漢方薬は2000年前からの長い実績があり、数々の病気に使われてきました。

さらに現代の病気にも次々と試され新たな知見が出ています。西洋薬がいいとか、漢方薬がいいとかではなく、それぞれのいいとこどりをすれば良いと思います。



カゼなどのウイルス感染症、冷え症、神経症、女性を中心とした微小循環障害(月経に関するトラブル、男女問わず慢性疾患など)などは、漢方薬を使った方が圧倒的に優位です。

適材適所という言葉があるように、それぞれの薬が活躍できる場面に柔軟性を持って試してみることです。

思わず早く治ってしまう場面に出くわすこともあるでしょう。長文におつきあいしていただき、ありがとうございます。

インフルエンザワクチンについて

今年もインフルエンザワクチンの接種を行います。

10月10日(火)から予約を開始します(完全予約制)。

ワクチンの入荷にもよりますが、10月16日(月)から接種開始予定です。

12月22日(金)まで行います。

詳細はなかしまこどもクリニックのホームページ、院内掲示にてお知らせします。



お知らせ

岐阜市の漢方外来予定日 10月7日(土)、28日(土)

14:00-17:30 場所: 中島小児科(岐阜市鍵屋東町2-1)

※すべて「**院外処方**」となります。

小児夜間急病センター当番日 10月20日(金)

19:30-22:30(受付) 場所: 岐阜市民病院にて

休診のお知らせ 10月25日(水)

都合により休診します。よろしく申し上げます。